

図表1-5-27 ▶ 能登半島地震：船上基地局



出所：NTTドコモ「令和6年能登半島地震に伴う『船上基地局』運用の実施について-NTTドコモ、KDDI共同で海上から通信を復旧-」（2024年1月6日）

請がデジタル化され、手続きが大幅に効率化された。さらに、ドローンを活用した被災家屋調査の支援が行われ、迅速なデータ収集が可能となった(図表1-5-29)。

あわせて、ICTを活用した新たな取り組みとして、オンライン診療が開始された。これは、避難者とかかりつけ医をビデオ通話でつなぎ、診療や服薬指導をオンラインで行うものだ。NTTドコモはStarlink衛星通信サービスを無償提供し、通信環境が不安定な地域でも円滑な医療支援を実現した。

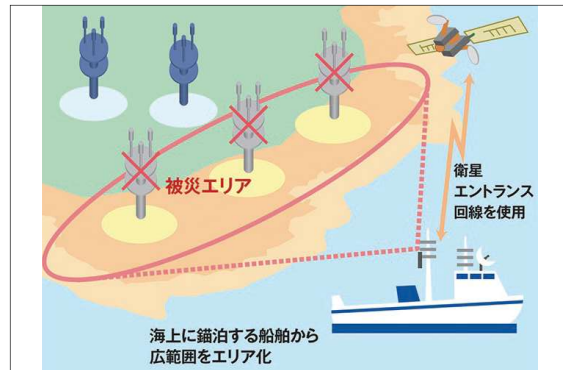
出張輪島朝市でのデジタル活用

3月に開催された、輪島朝市の復興支援イベント「出張輪島朝市」では、ICTを活用し、避難先からでも特産品を販売できる仕組みの構築を支援した。ライブコマースサービス「foove」を活用したライブ配信と、メタバース環境の提供だ。また、避難所や仮設住宅ではNTT西日本による、eスポーツを活用した健康増進活動や心のケアの支援が実施され、被災者の生活改善など復興支援活動が続けられている。

完全復旧と今後への教訓

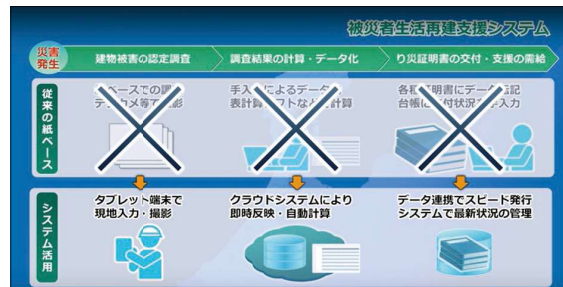
石川県内全域の通信エリアの完全復旧は6月末となり、多くの時間が費やされた。これは、交通網も含めたインフラの損傷や地形の問題など特殊な状況が複雑に絡み、一部地域の復旧に時間がかかったためだ。このように能登半島地震は、極めて対応が難しい災害であったが、そうした状況を克服した背後には、グループ内外の連携と現場対応力があつた。特にICTをはじめとした技術の活用が果たした役割は大きい。この地震で得られた教訓をもとに、船上基地局や衛星活用によるサービス復旧の適用範囲拡大など、災害に強いネット

図表1-5-28 ▶ 能登半島地震：船上基地局がつながる仕組み



出所：NTTドコモ「docomo EVERYDAY ドコモの能登半島地震での取り組み①-船上基地局篇-」

図表1-5-29 ▶ 被災者生活再建支援システム



出所：NTT西日本「NTT西日本の災害に対する取り組み事例 令和6年能登半島地震 ICT活用による被災地支援活動」（2024年9月17日）をもとに作成